



楓の森アップデート2



合志市立合志楓の森小学校
学校だより 第16号
令和6年12月10日(火)
文責:校長 佐藤 政臣

○校訓「志高く 道を拓く」

○学校教育目標「夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成」

人権月間(11/13~12/13) ~自分事として考える~

本日12月10日は、「世界人権デー」です。第二次世界大戦後の1948年12月10日に「世界人権宣言」が国際連合総会で採択されたことを記念し、1950年の国際連合総会で、毎年12月10日を「世界人権デー」として、記念行事を行うことが決議されました。

本校では、11月13日(水)から12月13日(金)まで人権月間として、全校一斉に人権教育に取り組んでいます。教材を使って学習していますが、教材の中の話として終わるのでなく、自分事として考え、実践力につながるよう学習を深めています。

菊池恵楓園絵画クラブ「金陽会」作品展(12/2~12/8)

12/2から12/8まで本校の地域交流室で菊池恵楓園絵画クラブ「金陽会」の作品展が開催されました。

「金陽会」は、1953(S28)年に、一人の看護師の呼びかけで始まった菊池恵楓園の絵画クラブです。金曜日に活動していたので「金曜会」と名付けられていましたが、太陽のように明るく活動を続けようと太陽の陽を取って「金陽会」となりました。「金陽会」は、指導してくれる先生がいたわけでもなく、メンバーそれぞれが思い思いに描いています。

ハンセン病は感染力が弱かったにも関わらず、かつては伝染病と思われ、不治の病として恐れられていました。入所者の中には家族に迷惑をかけるまいと、ふるさとから遠く離れた療養所に入っている人もたくさんおられました。それでも残された家族も、地域の人々からの偏見や差別によってつらい生活を強いられました。「金陽会」のメンバーが描く絵画の中には、遠く離れたふるさとや家族を想って描いた作品も残されています。この作品展を通して、ハンセン病患者の方々の生き方に学び、ハンセン病について正しく知ること、偏見や差別の解消につなげていきたいと考えます。作品の鑑賞については、全クラスが平等に観ることができるよう時間割を組んで鑑賞しました。

また、西合志第一小学校の5・6年生がバスで来校し、作品展を鑑賞しました。

まず会場に入ると、キュレーターの藏座江美さんから作品鑑賞についての注意事項を聞きます。

その後、藏座さんの解説を聴きながら鑑賞します。美術的に価値のある作品をキュレーターの解説付きで鑑賞ができるというのは、子どもの情操教育のためには大変素晴らしい取組であると思いました。



西合志第一小の子どもたち

藏座さんの解説を聞く



メモを取りながら鑑賞する子ども

ここで児童の感想を紹介します。

〇一つの絵を見て、とても細かく色鮮やかでとてもきれいでした。どれもとってもすてきでしたが、私が思う一番好きな絵は「寂」です。えんぴつだけで描いていながら細かく色がついている絵がイメージできます。本当にとてもすてきでした。私は、絵を描くことが大好きで毎年金陽会がとても楽しみでした。いろいろなテーマの絵があり、とても参考になりました。「市場」のようなリアルに描かれた絵は見えてすばらしいなと思いました。これからも金陽会を楽しみに待っています。

また、12/7(土)、12/8(日)に一般公開し、県内外から多数ご来場いただきました。一般来場者の感想を紹介します。

〇どの絵も力強さに溢れています。そして、色合いが深く一言では言えない色味だと感じます。どの絵にも作品の方の「描きたい気持ち」が強く感じられ、それが人をひきつけているのでしょう。

〇どの作品も一つ一つ個性に溢れていて感動しました。作品の中に喜びを感じました。入所者の人たちが気持ちの発散と描く喜びがしっかり伝わってきました。本当にすばらしい企画だと思います。ありがとうございました。

楓の森小 HP

学校行事や子どもたちの学習の様子につきましては毎日ホームページを更新していますので、ご覧下さい
<https://es.higo.ed.jp/kaedenomori/>

